

地域の催しや明るい話題などが「さいましたら、気軽に広報係までご連絡ください。」
☎43・5003(情報課)



浄瑠璃の愛好者、語りを披露

素人浄るり全国大会



▲糸に合わせて語り上げる出演者

今年で79回目を迎える淡路素義審査競演大会「素人浄るり全国大会(淡路人形協会主催)」が5月2日、3日、阿万地区公民館で行われました。2日間の出場者は41組。島内在住者のほか、大阪や徳島からも愛好者が参加しました。

毎年開催されているこの大会は、浄瑠璃の語り部分を担当する大夫が日ごろ鍛えた語

りを競い合うもの。ペアで出場する糸(三味線)の音に合わせて、「傾城阿波鳴門順礼歌の段」「日高川入相花玉渡し場の段」などを語り上げました。

この大会を運営する淡路素義審査会長は「今年は地元淡路から若者を含む3人が出場した。愛好者が減る一方で、次代への継承ができていると感じる。今後の活躍に期待したい。」と話していました。※大会の審査結果は13頁に掲載しています。



▲ハモ漁が解禁され、水揚げされたハモ

おいしいハモ、今年も頼むぞ!

第18回 鱧(はも)供養祭



▲高さ30mの上立神岩の前で船上から一斉に生きたハモを放つ関係者

ハモの本格的な季節を迎え、豊漁と商いの繁盛を祈願する「鱧(はも)供養祭」が、5月12日、沼島の西光寺で催されました。水槽に入った6匹のハモを前に供養が行われた後、船に乗り、海上の上立神岩の前で一斉に生きたハモを放しました。

「灘・沼島観光ふるさと会」の木村一会長は、「南あわじのハモは豊潤な味が最高です。高速料金割引がある今年は、多くの人にこれから一層おいしくなるハモを食べに来て頂きたい。」と話していました。

ハモ漁解禁、セリ始まる

ハモ初セリイベント

淡路産ハモの漁が解禁され5月10日、「初セリイベント(市観光協会主催)」が福良漁協で行われました。

初セリでは、漁船から水揚げされたハモを仲買人6人が大きさや身のしまり具合などを見て、紙に希望額を書いて落札。この日は、約1.5トンのハモが競り落とされました。また会場では、ハモレースや鮮魚掴み取りなどが行われ、たくさんの観光客で賑わいました。



▲荻田さん

危険業務従事者叙勲
瑞宝双光章
荻田徳二さん(賀集)

元尼崎市消防監の荻田さんは、昭和28年尼崎消防職員に採用後、消火・救助活動や救急業務に従事されて平成3年に退職。

荻田さんは「都会の人に負けたくない強い気持ちで懸命に努力した。38年間勤められたのも先輩の指導や後輩の支え、家族のサポートがあったからです。」と語られました。



▲酒部さん

瑞宝単光章
酒部安雄さん(市)



▲「ひつじの赤ちゃん、こっちだよ~」



▲5月14日、上田ダム周辺でメス鹿に発信機を装着(森林動物研究センター撮影)

首輪型GPS発信機でニホンジカの行動を調査

鹿被害対策に向けて

論鶴羽山系では、鹿による農業被害対策として防護網や柵を張り巡らせる方法が取られています。設置してない場所や防護が弱い場所から進入しての被害が出ています。そこで、鹿の移動ルートや集落への出没時間帯などを調べるため、神代社地区が兵庫県森林動物研究センター(丹波市)の協力を得て、野生鹿に首輪型のGPS発信機を装着して、鹿の行動を追跡調査

する取り組みを始めました。5月14日と15日の早朝、上田ダム周辺でメス鹿2頭に発信機を装着しました。鹿の行動データは、首輪に蓄積される仕組みになっています。※万が一、首輪を装着したシカを捕獲した場合は、首輪を回収しますので、農林振興課☎43・5025まで連絡をお願いします。

▲首輪型のGPS発信機

読書を通して親子のふれあい

「読書つまつり」開催

たくさん親子が集まり、図書館は大賑わい。

5月17日、南淡図書館で「第7回読書つまつり」が開催され、約1500人が参加しました。毎年多くのボランティアにより、絵本や紙芝居、人形劇などの読み聞かせや、手作りおやつ、バルーンアートなど様々なイベントが催されています。今年も、館内中に子どもたちの楽しい笑い声が響き渡りました。

玄関ロビーで行われた、南



▲館内中の様々なイベントに参加する子どもたち



イングランドの丘

ぼくたちの名前が決まりました!



▲日陰で休むひつじの親子

イングランドの丘で、2月下旬に雌雄の双子、3月初めに雌のひつじの赤ちゃんが誕生しました。ゴールデンウィーク期間中に名前を公募し、約500通の応募の中から、兄妹の名前のバランスが絶妙な「うめきち」「ももこ」、顔のイメージがぴったりの「なごみ」に決定。イングランドの丘で人気を集めています。

国土交通大臣表彰 花づくりネットワーク西淡

◆「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣表彰

昭和28年、尼崎市警察局(現兵庫県警)に就職後、40年間警察業務に従事。島内各署に勤務し、全国で3億円以上の被害を出した窃盗団の1人を逮捕自供させ、事件解決につながるなど数多くの事件に貢献されました。

酒部さんは「家族の支えがあったおかげ。勲章を頂いたことはこの上ない喜びです。」と話されました。

兵庫県の「被災地花いっぱい事業」と連動し、全ての小学校区に中核となる花壇とリーダーを育て、地域の花づくり活動に貢献。また、遊休の育苗施設を県の花・緑団体支援事業の指定を受け、リニューアルオープンさせ、年間1万5000本以上の花苗を配布する市の中核施設に育てるなど緑化活動に寄与されています。(関連記事24頁)